

新河岸川のあらまし（6）

天田 眞

赤間川をさかのぼって源流へ

伊佐沼方面へ向かう旧赤間川

川越市街地東側に新しい新河岸川を開削し赤間川につなげたため、伊佐沼へ向かっていた赤間川は普段は水が流れなくなりました。しかし、今でもその旧赤間川の大部分（田谷堰に近い部分以外）が雨水排水路として残っています。



田谷堰の北部に残る旧赤間川の水路

新河岸川の最上流部となった赤間川

田谷堰から上流の赤間川の現在の正式名称は新河岸川です。田谷堰から菓子屋横丁の裏手辺りまでは兩岸が垂直なコンクリート護岸ですが、川の中を散策できるようになっています。やがて住宅地の中の細い水路になり、しばらく進んで東上線・川越線と交差した後、『一級河川新河岸川』の起点に達します。

【表紙の文と写真を参照】



住宅地の中を流れる新河岸川最上流部



コンクリート三面張りの入間第二用水

途中までは新河岸川流域ですが、最上流は入間川流域に入り、また、青梅扇状地から流れてくる霞川（古多摩川の一つ）の下を伏せ越し（逆サイフォン）でくぐっています。

笹井堰が現在のようなコンクリート構造になったのは1939（昭和14）年で、用水路の最上流は堰堤右岸脇のゲートで取水しています。

赤間川沿川では最盛期には20軒以上の水車があったということです。



入間川の笹井堰を右岸下流側から見る